

平成24年度（2012年度）事業計画

財団法人 日本水泳連盟

所 信

昨年3.11“東日本大震災”発生以来、丸1年が経過する時期となりました。目指す復旧・復興は未だ緒に就いたばかりで、これから長い道のりとなりますが、1日も早く成就されますことを祈念いたしております。

オリンピック前年の昨年は、この大震災の影響を大きく受けて混乱いたしました。皆様方の深いご理解と絶大なるご協力をいただいております。諸問題の解決が進められ、年初に計画いたしました諸事業をほぼ目的どおり達成できましたことは、加盟団体の皆様をはじめ協賛企業各社様や多くの関係者のご支援ご協力の賜物であり、心より感謝と御礼を申し上げます。次第です。

さて、“センターポールに日の丸を！”をスローガンに掲げてきました2012年は、いよいよロンドンオリンピックの年となりました。前回の北京オリンピック以後、1年ごとに「スタートの年」、「鍛錬の年」、「飛躍の年」とアクセントをつけてモチベーションを揚げ、本年は「成果を出す年」です。これまでの3年間の努力をロンドンでの成果に結びつけるため、水泳界一丸となって全力を尽くし、目標に邁進してゆく覚悟です。

本年の競技力向上事業におきましては、まず競泳は4月に7日間にわたって開催されます日本選手権大会(50m)において、オリンピック代表選手を選考し、最強チーム“とびうおジャパン”を編成して7月のロンドンに臨みます。北京の成績を超えることを最大重点目標とし、鍛錬した力と技を基盤にして、メダル争いに挑戦していきたくと考えております。飛込については、昨年の不振を挽回するべく、最終選考対象大会となる2月の飛込ワールドカップ(ロンドン)に派遣し、複数選手のロンドン出場権の獲得をターゲットに、強化に精励しております。水球では、代表チーム“ポセイドンジャパン”が、1月のアジア水球選手権大会(千葉)でアジアナンバーワンを目指しましたが、残念ながらロンドンへの出場権獲得は成りませんでした。新たな次の目標は5月のワールドリーグ(上海、千葉)でのスーパーファイナル進出ならびに世界水泳2013への挑戦です。また、シンクロでは、代表チーム“マーメイドジャパン”が、着実な実力向上を積み上げて、4月の世界最終予選会(ロンドン)で3位以上の成績確保によるチーム、デュエットのロンドン出場権獲得が目標です。さらに、オリンピック初出場を目指すOWSでは、6月の最終予選会(ポルトガル・セチュバル)において、ニューパワーの出現を期待しているところです。いずれに致しましても、まずオリンピック出場権の獲得に全力を集中し、続いて本番のロンドン大会でのチャレンジで、成果を追及してゆく所存です。

一方、競技運営事業の順調な実施とともに、総務部門の最大の目標である公益財団法人への移行が3月末に予測され、一層の公益性、責任ある財団運営が要求されます。その他の諸事業も概ね当初の計画通り推移致しましたが、今後の課題も多く引続き総力を結集して取り組む所存です。加盟団体をはじめ関係各位には、より一層のご理解とご支援をいただきたくお願い申し上げます。

平成24(2012)年2月26日

会長 佐野和夫

国際競技大会参加予定一覧

(注) ◎印は主要競技大会

種目	競技会	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
競	オリンピック大会	◎ 8月			
	世界選手権大会		◎		◎
	アジア大会			◎	
	ユニバーシアード大会		◎		◎
	パンパシフィック選手権大会			◎	
	アジア選手権大会	○			
	東アジア大会		○		
	短水路世界選手権大会	○		○	
泳	ワールドカップ大会	○	○	○	○
	ユースオリンピック大会			○	
	ジュニア世界選手権大会		○		○
	豪州ジュニア遠征	シドニー	○	○	○
	ジュニアパンパシフィック選手権大会	○		○	
	ヨーロッパグランプリサーキット大会	○	○	○	○
	アジアエージ選手権大会			○	
	地域代表海外派遣 (シンガポール)	○	○	○	○
飛	オリンピック大会	◎ 8月			
	世界選手権大会		◎		◎
	アジア大会			◎	
	ユニバーシアード大会		◎		◎
	FINAワールドカップ				○
	アジア選手権大会	○			
	東アジア大会		○		
込	カナダ・U・S国際・中国 グランプリ大会	○			
	アジアエージ選手権大会		○		○
	ジュニア世界選手権大会	○		○	
水	オリンピック大会	◎ 8月			
	世界選手権大会		◎		◎
	アジア大会			◎	
	ユニバーシアード大会		◎		◎
	アジア選手権大会	○		○	
球	FINAワールドリーグ	○	○	○	○
	アジアエージ選手権大会 (U17)		○		○
	アジアジュニア選手権大会 (U19)	○		○	
	ユース海外派遣 (U18)	○		○	
ジュニア世界選手権大会 (U20)		○		○	
シ ン ク ロ	オリンピック大会	◎ 8月			
	世界選手権大会		◎		◎
	アジア大会			◎	
	アジア選手権大会	○			
	東アジア大会		○		
	オリンピック大会予選会	○			
	ワールドカップ大会			○	
	FINAワールドトロフィー	○	○	○	○
	ジュニア世界選手権大会	○		○	
	アジアエージ選手権大会		○		○
ジャーマン・フレンチオープン	○	○	○	○	
チェコ国際ジュニア	○	○	○	○	

1. JOC 事業

第30回オリンピック競技大会

- ① 期間・場所 7月27日～8月12日 イギリス・ロンドン
- ② 競技種目・日程
 - (イ) 競泳 7月28日～8月4日
 - (ロ) 飛込 7月29日～8月11日
 - (ハ) シンクロ 8月5日～8月10日
 - (ニ) OWS 8月9日・10日
- ③ 選手団編成
- ④ 選手選考
 - (イ) 競泳 4月2日～8日 日本選手権大会 東京辰巳国際水泳場
 - (ロ) 飛込 未定
 - (ハ) シンクロ 2011年9月19日
 - (ニ) OWS 未定
- ⑤ 合宿計画
 - (イ) 競泳 5月～7月 JISS他
 - (ロ) 飛込 未定
 - (ハ) シンクロ 4月～7月 JISS他
 - (ニ) OWS 未定

2. 特別事業

(1) 競泳ワールドカップ 東京大会

- ① 期間・場所 11月6日～7日 東京辰巳国際水泳場

(2) 水球ワールドリーグ・アジアオセアニアラウンド

- ① 期間・場所 5月8日～12日 千葉県国際総合水泳場

3. 競技力向上事業

競技力向上担当 上野 広治

ロンドンオリンピックの出場権獲得を目標とし、2月に飛込（ロンドン）、4月にシンクロ（ロンドン）、6月に OWS（ポルトガル）の各出場資格を獲得できるようロードマップを立案して強化にあたる。

その準備として現状の強化状態を確認する意味も含めて、月一回特別強化本部会議（2009年3月より開始）を開催して4部門の進捗状況を把握する。この会議はオリンピックに向けた競技力向上のために強化事業及び派遣事業がより効果的に実施されるよう、各部門を支援し推進することを趣旨とする。

(1) 競 泳

競泳委員長 上野 広治

2011上海世界選手権では、メダル6個を獲得し目標であった5個以上は達成できたものの金メダルが無く、『センターポールに日の丸を！』のスローガン実現は今年に持ち越しになった。2003年の世界選手権でもメダル5個（ともに女子50m背泳ぎを除くオリンピック種目）から翌年のオリンピック本番で8個のメダル獲得が出来たことからロンドン大会に向け大きな目標設定が出来た。その裏付けとして4位3種目・5位4種目・6位～8位6種目と今回はメダル獲得はできなかったが、一年かけてレベルアップを図れば十分にメダル獲得が可能な位置にある種目が多い。また、ロンドン大会終了後は、12月の世界短水路選手権（トルコ・イスタンブール）に過去最大の人数を派遣する予定である。この大会をリオデジャネイロに向けたスタートとして新旧入れ替えをスムーズに進めたい。

平成24年度の最主要大会は、7月ロンドンで開催される第30回オリンピック大会とし、4月の日本選手権で代表を選考する。前回・前々回とオリンピック2大会において20種目で決勝進出を果たしていることから、決勝で戦える選手を数多く育成することが重要と考える。また、大会結果から選考基準の信憑性を検証し、次年度以降の国際大会選手選考方法を立案する。

ジュニア強化（高校生及び中学生）に関しては、5月に行われるジャパンオープンで第5回ジュニアパンパシフィックの代表を選考。下期は、書類選考でアジア選手権、シドニーユースオリンピック大会に派遣する方針である。ブロック代表国際大会派遣は、引き続きシンガポールに派遣し更に強化する。また、国内強化は中央と地方から行い、第35回ジュニアナショナル強化合宿（中央：12月12日～20日）とジュニアブロック合宿（地域）、さらに第5回エリート小学生合宿（9月20日～23日）も継続して実施する。

① 国際競技会

(a) ヨーロッパグランプリサーキット	6月	ヨーロッパ
(b) セツテコリ杯	6月	イタリア
(c) サンタクララ国際	6月	アメリカ
(d) ジュニアパンパシフィック	8月	アメリカ・ハワイ
(e) ワールドカップ大会	10-11月	中東・ヨーロッパ・アジア
(f) アジア選手権	11月	UAE・ドバイ
(g) 世界短水路選手権	12月	トルコ・イスタンブール
(h) ジュニア地域代表国際大会	3月	シンガポール

②強化トレーニング合宿

(a) 海外合宿(フラッグスタッフ・グアム)		
(b) オリンピックリレー強化合宿	5月～6月	カナダ
(c) オリンピック強化合宿①	6月～7月	スペイン・イギリス
(d) オリンピック強化合宿②	5月～7月	JISS
(e) ジュニアパンパシフィック合宿	7月～8月	JISS
(f) インターナショナル強化合宿	11月・2月	JISS・GUAM
(g) ナショナル強化合宿	12月	鈴鹿・富士
(h) 地域ブロック合宿	12月	各ブロック担当県
(i) エリート小学生合宿	9/20-23	JISS

③コーチ派遣・招聘

(a) コーチ招聘	4月	スウェーデンより
(b) ASCA会議派遣	9月	アメリカ

④企画、研修及び講習会

(a) 全国強化コーチ会議	9月	東京
(b) ナショナルコーチングスタッフの育成	9月	東京(クリニック)
(c) ブロック合宿担当者会議	9月	東京
(d) 強化コーチ巡回指導	12月	

(2) 飛 込

飛込委員長 末弘 昭人

平成23年度は、FINA指定の「世界水泳(7月・上海)」と「ワールドカップ(2月・ロンドン)」の2大会においてロンドンオリンピックへの出場権を複数獲得することを最大の目標とした。前哨戦でもあるFINAグランプリ大会では幸先の良い成績を残す事ができながら本番の世界水泳においては決勝進出もならず、残念ながらオリンピック出場権は獲得できなかった。続くユニバーシアード(8月・深圳)ではメダル1個・入賞2種目と当初目標は達成できたものの、内容としては決して喜べるレベルではなかった。

オリンピック出場権を賭けてロンドンで開催されるワールドカップ(2月22日～26日)に向けては国内において既に2回の合宿を実施、2月に入ってから上海合宿を経て最後のチャンスとして残された本大会において複数のオリンピック出場権を獲得し、来期につなげる。

平成24年度は、5月にFINAグランプリ(カナダ～アメリカ大会)、6月にFINAグランプリ(スペイン～イタリア大会)にナショナルチームを派遣し、オリンピック大会前に国際大会における確認と調整をしてロンドンへのステップとする。各グランプリ派遣前の国内合宿とオリンピック直前の海外合宿を経てロンドンに向かい飛込界の悲願であるオリンピックにおける初のメダル獲得を目指す。11月にはUAE・ドバイで開催されるアジア選手権に代表選手を派遣、リオデジャネイロに向けた新しい4年間へのスタートを切る。

ジュニア強化においては、10月にオーストラリア・アデレードにて開催される世界ジュニア選手権にジュニアチーム派遣し、複数のメダル獲得を目指すほか、ジュニアの時期から国際交流の経験を積ませることを目的として、費用の一部補助によるカナダCAMO国際招待大会への遠征を引き続き実施する。また、世界的な競技開始年齢の早期化に対応す

るため、基礎技術の習得のみならず選手としての心構え・生活習慣・学習・栄養学などの指導をも含め、選手のみならずコーチ・保護者への協力も仰いだ小学生研修合宿の実施を導入する。

また、4月開催の日本選手権開催と並行して、東日本大震災の影響を受けて中止となったFINA School for Diving, Certification Courseを開講し、国際審判資格の維持と同時に国内における審判技術の向上に努める。

①国際競技会

(a) FINA グランプリ CAN・AM 大会	4/29～5/15	カナダ～アメリカ
(b) FINA グランプリ ESP・ITA 大会	6/11～26	スペイン～イタリア
(c) 世界ジュニア選手権	10/4～14	豪州・アデレード
(d) アジア選手権	11/22～25	UAE・ドバイ
(e) ジュニア国際大会	未定(12月)	カナダ・モントリオール

②強化トレーニング合宿

(a) ナショナルチーム強化合宿		
(ア) 国内強化合宿		
・GP・オリンピック事前合宿	4月・5月	3回
・ナショナル強化合宿	11月・2月・3月	3回
(イ) 海外強化合宿		
・オリンピック事前合宿	7月	1回
(b) ジュニア強化合宿		
(ア) 国内強化合宿		
・世界 Jr. 事前合宿	9月	1回
・ジュニア強化合宿	12月・3月	2回
・小学生研修合宿	11月・1月	2回

③企画、研修及び講習会

(a) 強化コーチ会議	10月 他	数回
(b) 全国ブロック代表会議	12月	1回
(c) 審判員研修会		
(ア) FINA Judges School	4月	1回
(イ) 国内審判研修会	4月・6月 他	3回

(3) 水 球

水球委員長 原 朗

平成24年1月24日～27日、ロンドン五輪アジア大陸代表予選を兼ねた「アジア水球選手権」が、千葉県国際水泳場で開催された。結果は、男女ともにカザフスタン・中国に敗れ3位の成績に終わり、目標とした五輪出場権獲得はならなかった。この結果により、2002年から水球委員会で進めてきた「水球日本チャレンジ10」が終了することになった。この間、関

係各位から頂いたご理解・ご支援に感謝し、この10年間に経験したことを総括して次の目標に向かって新たなスタートをして行きたい。

さて、平成24年度男子代表は、「FINA 水球男子ワールドリーグ・アジアオセアニアラウンド大会」の上位2カ国に出場枠が付与される同大会のスーパーファイナル進出と、「アジア選手権」において上位2カ国に出場枠が付与される「2013年バルセロナ世界水泳選手権」の出場権獲得を目標にする。主要選手の海外派遣事業については、2016年オリンピック予選を見据え、新たに対象選手を4名程度選出する。女子代表については、男子同様に「FINA 水球女子ワールドリーグ・アジアオセアニアラウンド大会」でのファイナル進出を目標にする。また、男女ともに2016年オリンピック予選時のメンバー構成を考慮し、若手育成を強化のポイントとして強化策を進める。男子については日本代表とユニバーシアード代表を区別して若手選手の底上げを図り、女子については、ジュニア選手を積極的に登用していきたい。

ジュニア強化については、2016年、2020年を見据え、「全日本ユース大会(桃太郎カップ)」の第1回から4回大会で育った選手を中心に、1993-1996年生まれの男女ジュニア選手をカザフスタンで開催される「アジアジュニア選手権」に派遣。男女ともにアジア No1を目指す。

また、この世代には多くの才能ある選手が見られ、平成24年以降は、ジュニア選手の育成・強化を重要課題とする。

①チーム派遣

(a)	ワールドリーグ・アジアオセアニアラウンド(男子)	5月1-5日	中国・上海
		5月8-12日	日本・千葉
(b)	ワールドリーグ・アジアオセアニアラウンド(女子)	5月3-5日	中国・上海
		5月8-10日	日本・千葉
(c)	ワールドリーグ・スーパーファイナル(男子)	6月12-17日	カザフスタン・アルマティ
(d)	ワールドリーグ・スーパーファイナル(女子)	5月29日-6月3日	中国・常熟
(e)	アジアジュニア選手権(男子)	8月下旬	カザフスタン・アルマティ
(f)	アジアジュニア選手権(女子)	9月2-6日	カザフスタン・タラス
(g)	アジア選手権(男子)	11月19-25日	UAE・ドバイ

②国際大会派遣選手選考会

(a)	ワールドリーグ	4月7-8日	JISS
(b)	アジア選手権(男子)	10月5-7日	辰巳

③強化トレーニング合宿

(a)	海外拠点強化合宿(男子)	12月-2013年1月	豪州
(b)	国際競技会国内事前合宿		JISS他
(c)	ナショナルチーム強化合宿(男女)		JISS他
(d)	男女ジュニア・ユース研修(男女)		JISS
(e)	海外選手派遣事業		

④チーム・コーチ招聘

(a)	中国代表合同合宿(男子)	未定	JISS
(b)	豪州選抜合同合宿(男子)	未定	JISS
(c)	NZ代表合同合宿(女子)	未定	JISS

⑤企画・研修及び講習会

- (a) 強化コーチ会議
- (b) 全国コーチ会議・研修会
- (c) 国際情報収集
- (d) 日本代表ゲーム分析・評価事業
- (e) 強化指定選手研修会
- (f) コーチ研修会
- (g) 審判指導者合同研修会
- (h) ジュニア指導者研修会
- (i) 水球教室:アクアゲーム普及・強化の展開
- (j) 水球競技広報活動(ポセイドンジャパン)

⑥地域競技会の充実支援・審判員の育成

- (a) 全国水球委員長会議
- (b) 水球地域ブロック会議
- (c) 審判員講習会
- (d) 競技運営勉強会

(4) シンクロ

シンクロ委員長 本間 三和子

平成24年度は、上期は第30回オリンピック競技大会（ロンドン大会2012）予選会（4月18日～22日、ロンドン）へ、代表チームを派遣する。身体体積の高さと強い脚を重点課題として強化に取り組み、予選会では上位に予想されるロシア、スペインに迫り、オリンピック出場権獲得に全力を尽くす。オリンピックでは完遂度と同時性に加えて表現力を高め、メダル奪還をめざす。

下期は、FINA ワールドトロフィ大会、アジア選手権に代表チームを派遣し、若手選手の強化育成につなげる。また、2013年世界選手権代表派遣選手選考会を実施し、2013年から2016年リオオリンピックに向けた新たな4年スパンでの強化を始動する。

ジュニアは、FINA 世界ジュニア選手権に代表チームを派遣する。ジュニアにおいてもヨーロッパ勢の猛追により、厳しい戦いが予想されるが、フィギュアの高さとコントロール力、ルーティンのスピード・パワー・表現力の徹底強化を図り、メダルを狙う。

また、2016年、2020年オリンピックを見据えたユース年代（12～15歳）の強化育成を継続する。全国8ブロックより選抜された有望選手を対象に、表現力、ダンス、トランポリンなど各所属では取り組むことが困難なトレーニング、および徹底した基本トレーニングを中心としたユース有望選手合宿を実施する。有望選手からさらにエリート強化選手・ジャンパー強化選手を少人数選考し、エリート強化合宿を通して、次代の中心戦力になる選手を着実に育てていく。

選手強化と並行して、トップレベルの指導者と審判員の育成も重要な柱である。国際情報収集・分析、専門知識・指導技術の実践研修を通して、世界をリードする指導者と審判員の育成に力を注ぐ。

① 国際競技会

(a) 第30回オリンピック競技大会予選会	4月	イギリス・ロンドン
(b) FINA ワールドトロフィ	未定	
(c) アジア選手権	11月	UAE・ドバイ
(d) FINA 世界ジュニア選手権	9月	ギリシャ
(e) ジャーマンオープン	3月	ドイツ・ボン
(f) フレンチオープン	3月	パリ・フランス
(g) クリスマスプライズプラハ	12月	チェコ・プラハ

② 強化トレーニング合宿

- (a) 国際競技会事前強化合宿(国内・海外)
- (b) ユース有望選手特別強化合宿、ユースエリート・ジャンパー育成特別強化合宿
- (c) 全国選抜シニア・ジュニア中央強化合宿
- (d) ジュニアフィギュア強化合宿

③ 企画、研修及び講習会

- (a) ナショナルコーチ・国際審判員会議
- (b) 全国コーチキャンプ、コーチ・ジャッジクリニック
- (c) 審判研修会
- (d) 国際情報収集、競技力分析
- (e) ユース発掘・育成・強化、巡回指導
- (f) 競技者育成プログラムバッジテスト
- (g) シンクロ委員会、委員総会

(5) 科学委員会

科学委員長 野村 照夫

平成24年度は、関係諸委員会、JISS、JOC と一層連携を深め、競技力向上に関する科学支援事業を展開する。レース分析方法の改善を含め、国内競技会等で実施する。そして、教育・啓発活動として、日本水泳・水中運動学会年次大会に協力し、その最新の科学的知見を広報委員会と連携し、広く周知させることに努める。さらに、指導者資格付与制度に対し、専門知識の提供と、養成講習会の講師派遣等に協力する。その他、ジュニアの競技力向上に関する科学サポートを推進し、エリート小学生や準強化選手の合宿等で科学情報の収集や提供を行う。また、飛込、水球、シンクロの各委員会が行うジュニアに対する科学サポートを支援する。

① 競泳のレース分析

- (a) 分析方法の改善
- (b) 第 88 回日本選手権大会 競泳競技におけるレース分析
- (c) Japan Open 2012(50m)におけるレース分析
- (d) 第 54 回日本選手権 競泳競技(25m)におけるレース分析

② 教育・啓発活動

- (a) 2012 年度 日本水泳・水中運動学会年次大会への協力
- (b) 指導者資格付与制度への協力

- ③ ジュニアの競技力向上に関する科学サポートの推進
 - (a) 競泳エリート小学生合宿における科学サポート
 - (b) 競泳準強化合宿における科学サポート
 - (c) 水球、飛込、シンクロにおけるジュニアの科学サポート

(6) 医事委員会

医事委員長 金岡 恒治

平成23年度は、主要競技大会・強化合宿でのメディカルサポート活動を計画通り実施し、スタッフ間の情報交換や研究報告活動を行った。

平成24年度は、関係諸委員会、各加盟団体、JISS、JOC、日体協等との良好な連携を保ち、競技力向上を目的としたメディカルサポート活動及び研究報告活動を行う。具体的には、各種競技会における救護活動、国際競技大会選手団に対するメディカルサポート、強化対象選手のメディカルチェック、アンチ・ドーピング活動、障害予防プログラムの考案と実践、JISSクリニック・リハビリテーション室における医事相談・トレーナー活動、メディカルスタッフ間の連携と情報共有を目的としたメディカルサポートミーティングを実施する。

教育・啓発活動として、日本水泳ドクター会議、日本水泳トレーナー会議への協力を通して、水泳文化の普及・発展に寄与する。また、指導者養成講習会への講師派遣等の協力を行う。

12月にイスタンブールで開催される第17回 FINA WORLD SPORTS MEDICINE CONGRESS の Workshop において、医事委員会として取り組んできた腰痛予防対策について発表する。

- ① 競技大会における救護・支援活動
- ② 競技選手へのメディカルサポート活動
 - (a) 選手のコンディショニングおよび障害・疾病の管理
 - (b) アンチ・ドーピング活動
 - (c) 強化指定選手のメディカルチェック・障害予防プログラムの実践
 - (d) 強化指定選手の医事相談活動及び調査研究活動
 - (e) メディカルサポートミーティングでの情報共有および連携強化
- ③ 教育・啓発・研究活動
 - (a) 日本水泳ドクター会議への協力
 - (b) 日本水泳トレーナー会議への協力
 - (c) スポーツ医学・健康医学セミナーへの協力
 - (d) 障害を予防するための研究・予防プログラムの普及
 - (e) 指導者養成講習会への講師派遣

4. 競技事業

競技事業担当 安部 喜方

平成24年度は、競泳（ロンドンオリンピック代表選考会）・飛込・水球・シンクロの日本選手権を中心に全国で開催される主要大会を運営する。

国際事業関係は4月にFINA競泳オフィシャルセミナーを開催する。また、5月には水球ワールドリーグ・アジアオセアニアラウンド、11月には3年目となる競泳ワールドカ

ップを開催する。

昨年開催できなかった全国競技委員長会議を開催し、より一層レベルの高い競技会の運営を推進する。

大会企画委員会と競技運営委員会の役割分担を明確にし、今後も各大会の開催地、主管団体との連絡調整を密にして、企画、立案、運営、予算管理を行い、準備から大会終了まで大会収支を明確にする。

(1) 大会企画委員会

大会企画委員長 安部 喜方

- ① 競技会・会議の企画・立案
- ② 各種目競技会日程および要項の作成
- ③ 各種目競技会の予算の管理
- ④ 国際関係特別事業の開催
 - (a) 競泳ワールドカップ
 - (b) 水球ワールドリーグ・アジアオセアニアラウンド
 - (c) FINA競泳セミナー
- ⑤ 主要競技会の日程

【競泳競技】

(ア) 日本選手権水泳競技大会 兼第 30 回オリンピック競技大会代表選手 選考会	4月2日～8日	辰巳国際	東京
(イ) ジャパンオープン 2012(50m)	5月25日～27日	辰巳国際	東京
(ウ) 日本大学・中央大学対抗戦	6月30日	辰巳国際	東京
(エ) 早稲田大学・慶応義塾大学対抗戦	7月1日	辰巳国際	東京
(オ) 日本実業団水泳競技大会	8月4日・5日	アクアドーム熊本	熊本
(カ) 全国国公立大学選手権大会	8月8日・9日	くろしおアリーナ	高知
(キ) 日本高等学校選手権大会	8月17日～20日	ダイエープロビスフェッ クス	新潟
(ク) 全国中学校水泳競技大会	8月21日～23日	県立温水プール	栃木
(ケ) 全国 JOC ジュニアオリンピックカップ夏季	8月26日～30日	辰巳国際	東京
(コ) 日本学生選手権水泳競技大会	9月7日～9日	辰巳国際	東京
(サ) 国民体育大会	9月15日～17日	長良川スイミングプラ ザ	岐阜
(シ) 日本選手権(25m)水泳競技大会	2月23日・24日	相模原市総合	神奈川
(ス) 全国 JOC ジュニアオリンピックカップ春季	3月28日～31日	ダイエープロビスフェッ クス	新潟

【飛込競技】

(ア) 日本選手権水泳競技大会	4月13日～15日	辰巳国際	東京
(イ) 日本高等学校選手権大会	8月17日～20日	ダイエープロビスフェッ クス	新潟
(ウ) 全国中学校水泳競技大会	8月21日～23日	県立運動公園水泳 場	栃木
(エ) 全国 JOC ジュニアオリンピックカップ夏季	8月27日～30日	千葉国際	千葉
(オ) 日本学生選手権大会	9月8日～9日	富士	静岡
(カ) 国民体育大会	9月15日～17日	長良川スイミングプラ	岐阜

サ

【水球競技】

(ア) 日本高等学校選手権大会	8月17日～20日	柏崎	新潟
(イ) 全国 JOC ジュニアオリンピックカップ夏季	8月26日～30日	大阪プール	大阪
(ウ) 日本学生選手権大会	9月7日～9日	相模原市総合	神奈川
(エ) 国民体育大会	9月14日～17日	大垣	岐阜
(オ) 日本選手権水泳競技大会	10月5日～7日	辰巳国際	東京
(カ) 全国女子水球競技大会	10月5日～7日	辰巳国際	東京
(キ) 全日本ユース(U15)選手権大会	12月24日～27日	倉敷市屋内他	岡山
(ク) 全国 JOC ジュニアオリンピックカップ春季	3月27日～31日	千葉国際	千葉

【シンクロ競技】

(ア) 日本選手権水泳競技大会	5月2日～5日	辰巳国際	東京
(イ) 日本シンクロチャレンジカップ°2012	8月9日～12日	辰巳国際	東京
(ウ) 全国 JOC ジュニアオリンピックカップ夏季	8月27日～30日	福岡県総合	福岡
(エ) 国民体育大会	9月13日	長良川スイミングプラ	岐阜
(オ) シンクロナショナルトライアル 2013	1月26日	JISS	神奈川
(カ) 13～15歳ソロ・デュエット大会	1月27日	横浜国際	神奈川

【その他】

(ア) OWSジャパンオープン 2012 館山	7月15日	館山市北条海岸	千葉
(イ) 日本マスターズ大会	7月13日～16日	千葉国際	千葉
(ウ) 日本泳法大会	8月18日・19日	横浜国際	神奈川
(エ) 東京・マラソンスイミング	9月	お台場	東京
(オ) 日本スポーツマスターズ	10月20日・21日	くろしおアリーナ	高知
(カ) 日本泳法研究会	3月23日・24日	松山	愛媛

(2) 競技運営委員会

競技運営委員長 鈴木 浩二

- ① 各種目競技会要項に基づく競技会の実施
- ② 競技役員の研修会・講習会
 - (a) ブロック
 - (b) 各地域
 - (c) 日本選手権・ジャパンオープン・日本選手権(25m)での実技研修
- ③ 全国競技委員長会議の開催 4月5日 東京辰巳国際
- ④ 選手登録
- ⑤ 競技役員登録(登録のデータ化)
- ⑥ 記録の公認・管理
 - (a) 日本記録の公認および高校・中学・学童記録の公認
 - (b) FINAへの世界記録の申請
 - (c) ホームページ上の記録の管理
- ⑦ 資格表の作成

(3) 学生委員会

学生委員長 林 敏久

- ① 全国代表者会議の開催(年4回)
- ② 日本学生選手権大会の開催
- ③ 全国国公立大学選手権大会の開催
- ④ 全国学生代表選抜合宿 9月(GUAM)

5. 指導者養成事業

指導者養成事業担当 設楽 義信

競技力向上コーチ委員会は、研修会・養成講習会の会場手配も完了し新年度を迎える。今後も世界で戦えるトップアスリート育成を目指し最新知識の供給に努める。また、3年目を迎えた免除適応コース実施校の新規開拓事業も併せて行う。

地域指導者委員会は、上級指導員の講習・検定および上級指導員マスター認定者研修を実施する。また、一昨年スタートをしたアスリート対象基礎水泳指導員免除申請業務も併せて行っていく。今後も加盟団体と連携をとりながら免除校検定試験、養成・更新登録業務等をしっかりと推進する。

水泳教師委員会は、スイミングクラブ等の商業施設で会員(顧客)が満足できるような指導者育成を目指した専門的知識・技能等、レベルやニーズに合わせた指導力を身につけるための養成・研修会事業を推進する。今後も社団法人日本スイミングクラブ協会と連携し安心して指導が受けられる施設の拡充を目指す。

公益財団法人日本体育協会が4月より実施する指導者資格再登録および公認スポーツ指導者管理システムの活用を3委員会が足並みを揃えしっかりと取り組む。

(1) 競技力向上コーチ委員会

競技力向上コーチ委員長 設楽 義信

- ① 資格審査会(年2回)の実施
- ② コーチ資格の新規登録・再登録・更新登録事業
- ③ コーチ研修会事業(コーチ10会場・上級コーチ2会場)
- ④ 養成講習会事業の推進
- ⑤ 免除適応コース実施校の開拓
- ⑥ 公認スポーツ指導者管理システムの活用

(2) 地域指導者委員会

地域指導者委員長 宮本 憲二

- ① スポーツ指導員に関する事業
 - (a) (公財)日本体育協会 指導員・上級指導員新規養成事業の推進(加盟団体による指導員養成)
 - (b) (公財)日本水泳連盟による上級指導員の養成
 - (c) (公財)日本体育協会 指導員・上級指導員資格取得者の登録及び有資格者の更新
 - (d) 基礎水泳指導員に関する事業
 - (ア) 基礎水泳指導員資格取得者の登録
 - (イ) 養成に関わる督励・指導・助言
 - (ウ) アスリート基礎水泳指導員資格免除認定審査
 - (e) 免除適応校専門科目検定

- 全国4会場（北海道，東京，名古屋，大阪）
- (f) マスター指導員中央研修会の実施
- (g) 安全対策の普及徹底
- (h) 全国地域指導者（普及）委員長会議の開催
- (i) 各種依頼事業への協力

② 普及に関する研究事業

- (a) 担当者の手引き新規作成
- (b) 総合補償制度への加入推進
- (c) 加盟団体各地区委員長会議・研修会の開催

(3) 水泳教師委員会

水泳教師委員長 澁谷 俊一

- ① 水泳教師新規養成事業の推進（日本スイミングクラブ協会と合同推進）
 - (a) 適応コース講習検定会の実施 5校（日本水泳連盟が担当）
 - ・ 大阪社会体育専門学校
 - ・ 東京スポーツレクリエーション専門学校
 - ・ トライデント・スポーツ健康科学専門学校
 - ・ 東京YMCA 社会体育専門学校
 - ・ 東京リゾート&スポーツ専門学校
 - (b) 適応コース認定校の新規開拓（日本水泳連盟が担当）
 - (c) 新規養成コース講習検定会の実施（日本スイミングクラブ協会が担当）
 - ・ 日本スイミングクラブ協会全国10支部の各会場にて開催
 - (d) 「資格を取ろうキャンペーン」活動の実施（日本スイミングクラブ協会と合同推進）
- ② 水泳教師資格の新規・更新登録事業（日本スイミングクラブ協会と合同推進）
 - ・ 4月・10月認定「日水連・SC協合同検定委員会」の開催
- ③ 水泳教師資格更新研修会事業（日本スイミングクラブ協会と合同推進）
 - ・ 日本スイミングクラブ協会 全国10支部の各会場にて開催
 - ・ 更新研修会受講通知作業（日本水泳連盟が担当）
- ④ 水泳教師在籍施設証明事業の推進（日本スイミングクラブ協会と合同推進）
 - ・ 4月・10月認定 認定施設の新規・更新登録事業

6. 国際関係事業

国際関係事業担当 佐野 和夫

- (1) 国際水泳連盟（F I N A）及びアジア水泳連盟（A A S F）関連業務
- (2) 諸外国との交流に関する業務（競技者資格証明の発行等を含む）
- (3) 国際大会招致・開催に関する諸業務

7. 生涯スポーツ・普及事業

生涯スポーツ・普及事業担当 鈴木 大地

生涯スポーツ普及事業は『日本泳法』、『マスターズ水泳』、『泳力検定』、『オープンウォータースイミング』の4つの柱からなる。

日本泳法委員会については、平成24年度も引き続き泳法大会および研究会を通じ、各

流派各泳法の奥義を極め、次世代への普及および伝承を図る。

生涯スポーツ委員会では泳力検定受験者および合格者数増加を目指す。日本スポーツマスターズ大会では大会での記録がマスターズ記録として認定されることも可能になったこと、新年齢カテゴリーを新設したこと等プラス材料による参加者数増を予定している。

OWS委員会ではロンドンオリンピックへの選手派遣および上位入賞を目標に掲げる。今後の強化に弾みをつける。また、国内のサーキットシリーズを確立し、より一層の普及につとめる。今年度も普及および競技力向上を両立させていく。

(1) 日本泳法委員会

日本泳法委員長 八木 沼 正彦

- ① 第57回日本泳法大会 8月18・19日 横浜国際プール
- ② 游士、練士、教士、範士の資格認定、游士研鑽会の開催
- ③ 第61回日本泳法研究会 H25年3月23・24日 愛媛県松山市
 - ・ 課題「神伝流」

(2) OWS委員会

オープンウォータースイミング委員長 鷺見 全弘

- ① 競技会運営(安全重視の競技会運営)
 - (a) 「OWSジャパンオープン2012 館山」、「東京マラソンスイミング」の開催
 - (b) サーキットシリーズ化に向けた各地のOWS大会の支援協力
 - (c) 競艇場を活用した競技会の企画立案
- ② 普及発展
 - (a) OWSスイムクリニック、OWS検定会の開催
 - (b) サーキットシリーズの実施
 - (b) 「公認OWS指導員制度」の導入
- ③ 競技力向上
 - (a) ロンドンオリンピック出場
 - (b) 国際大会への選手派遣(FINAマラソンスイミングワールドカップ、ジュニアパンパシフィック選手権他)
 - (c) 強化体制の確立
- ④ 安全対策
 - (a) FINA競技規則の改訂及び東日本大震災に伴う「OWS安全対策ガイドライン」の改訂
 - (b) OWS安全装具の普及

(3) 生涯スポーツ委員会

生涯スポーツ委員長 鈴木 大地

- ① 泳力検定制度の推進
 - (a) 検定受験者数の増加
 - (b) 検定級および検定料の見直し
 - (c) 泳力検定優秀団体表彰
- ② 日本スポーツマスターズ大会(10月20・21日高知)の運営

- (a) 参加加盟団体および選手の増加
- (b) 告知方法の検討および事務手続き簡略化
- (c) 魅力ある企画の立案
- ③ 地域スポーツ活動への支援・協力
 - (a) 優秀登録団体表彰

8. 総務事業

総務事業担当 坂元 要

広報委員会は、平成24年度は、月刊水泳、ホームページ事業共にロンドンオリンピックに向けて、活動内容をよりタイムリーに伝達できるように努めていく。特にホームページは見やすいように、リニューアルに向けてHP管理会社、情報システム委員会と連携して進めて行く。予算面においては、コスト等の見直しを常に行い、適正な経費管理を行う。広報・報道活動は、主要競技大会の報道関係のまとめを行い、表彰プレゼンター手配等のサポートを行う。

施設用具委員会は、プール公認規則の水泳関係者、加盟団体担当者及び公認測量者への周知徹底を図り、関連資料を整備しプールの設計指針を作成する。ホームページの内容を見直し、Q&A欄を充実させて情報提供を行う。また、総務委員会と連携してプール関連企業のプール用器具の開発と審査・推薦を行う。

情報システム委員会は、システム使用上で問題となっている事項、加盟団体からの要望積み残し事項を中心に機能改善を行う。特に競技者登録関係では、同一競技者の7桁IDの重複防止機能と重複ID判明時の修正集約機能の開発、大会エントリー関連では記録報告タイムのベストタイムをエントリータイムとして連携ができる機能の開発を行う。また、モバイル携帯機器の活用拡大策では継続して関連会社との連携を強化してスマートフォンでの活用、種々の記録検索機能の開発を行っていく。

総務委員会は、公益財団法人への移行後の細かい調整作業を行いながら、各業務を推進していく。各委員会との連絡調整を密接に行い諸事業の運営が円滑に推進されるようサポートして行く。また、2014年秋の創立90周年記念事業に向けて、準備体制を構築する。

(1) 広報委員会

広報委員長 村山 よしみ

- ① 月刊水泳の内容充実と定期購読者増
- ② ホームページの充実と活用促進
- ③ 広報活動の推進

(2) 施設用具委員会

施設用具委員長 國富 進

- ① プール公認規則の整備・実施・情報提供
- ② プール施設の公認（事前・新規・再公認）
- ③ 施設用器具の公認・推薦
- ④ プール用器具の研究開発・審査・推薦

(3) 情報システム委員会

情報システム委員長 須永 孝

- ① Web-SWMSYS のシステム改善
 - ・ 7桁IDの重複防止と重複ID修正集約機能開発
 - ・ 記録管理システム連携でエントリータイムの取込機能開発
- ② モバイル携帯機器の活用拡大
 - ・ スマートフォン対応
 - ・ 記録検索機能の充実
- ③ 他システムとの連携強化
 - ・ Web-SWMSYS～リザルトシステム～記録管理システムの連携強化

(4) 総務委員会

総務委員長 坂元 要

- ① 事業計画の作成
- ② 新公益法人制度移行後の対応
- ③ 規程集の整備と実施
- ④ 公認・推薦事業の推進と統括
- ⑤ 免税募金事業の推進と統括
- ⑥ 有功章の表彰
- ⑦ 各種登録及び更新業務
- ⑧ オフィシャルサプライヤー制度の推進
- ⑨ 各種会議の開催
- ⑩ 各種の渉外業務
- ⑪ 地域会議の開催
- ⑫ 事務局の管理
- ⑬ 創立90周年記念事業への対応

9. 財務一般会計

財務担当 坂元 要

- ① 予算の作成と執行管理
- ② 中長期財務対策

10. 特別委員会

(1) 財務委員会

財務委員長 堀 正美

免税募金事業の推進

(2) 競技者資格審査委員会

競技者資格審査委員長 青木 剛

競技者資格の審査

(3) 選手選考委員会

選手選考委員長 佐野 和夫

国際競技会派遣日本代表選手団の選考

(4) 指導者養成委員会

指導者養成制度の確立と資格認定審査

指導者養成委員長

設楽 義信

(5) 国際委員会

国際関係の情報共有推進と国際競技会の招致計画

国際委員長

佐野 和夫

(6) アンチ・ドーピング委員会

アンチ・ドーピング活動の計画と推進

アンチ・ドーピング委員長

泉 正文

(7) スポーツ環境委員会

スポーツ環境保全活動の啓発と指導・推進

スポーツ環境委員長

佐野 和夫

(8) 倫理委員会

倫理、社会規範意識の啓発と指導

倫理委員長

青木 剛